方言は消滅してしまうか

東京外国語大学　　孫　迎依

はじめに

2009 年 2 月 20 日付の朝日新聞夕刊に「八丈語？世界 2500 言語、消滅危機　日本は 8 語対象、方言も独立言語　ユネスコ」という見出しの記事があった。これによると、「世界で約 2500 の言語が消滅の危機にさらされているとの調査結果を、国連教育科学文化機関（ユネスコ、本部パリ）が 19 日発表した。日本では、アイヌ語が最も危険な状態にある言語と分類されたほか、八丈島や南西諸島の各方言も独立の言語と見なされ、計８言語がリストに加えられた。」と書かれている。

それから、方言で話すのが大好きな私自身の経験では、同じ地域の高校時代のクラスメートと方言を話したいが、意外と話せない人が何人もいる。さらに、今小学校のいとこは方言を聞いて大体の意味が理解できるが、ほとんど話せない。この前、その子に方言で私と話してくださいと言って、彼女が頑張って話そうとしたが、話した方言の発音があまり正しくなかった。彼女だけではなく、近くの小学生や中学生など、ほとんどの子供がうちに帰って、両親や祖父母と話すときも共通語で話している。あまり共通語が話せない祖父母たちがしかたなく変な言葉、つまり、中国の雑誌「語文研究」の副編集長· 李小平教授が指摘したように「方言的普通話」あるいは「普通話的な方言」を用いている。それで、方言で話す機会があまりないので、話せる人がだんだん少なくなっている。

しかし、大学に入って、全国さまざまな地域からの学生と出会って、みんな違う方言で話すことがとても面白いと思う。地元の人と出会ったら、方言で話すと、お互い同士がすぐ親しくなった気がする。それはたぶん方言の魅力だと思う。

現在、世界特に中国と日本の方言の状況はどうだろうか。数多くの方言がこういう状態になった原因は何だろうか。方言の魅力はどこにあるのか。今方言の状況に対してどうしたらいいか。

このレポードでは、このような疑問点の答えを関連資料から探り、どのような方策が必要なのか、識者の意見を参考に考察する。

第一章：　中国と日本の方言の現状

現在、マスメディアやインターネットが広く普及したことに伴い、私達の身の回りには共通語が溢れている。全国に発信されるニュースなどは、共通語で放送されている。このため、各地域で古くから使用されてきた方言という言葉は、近年衰退傾向にあり、今や消滅の危機に瀕している。このまま方言は消滅してしまうのだろうか。

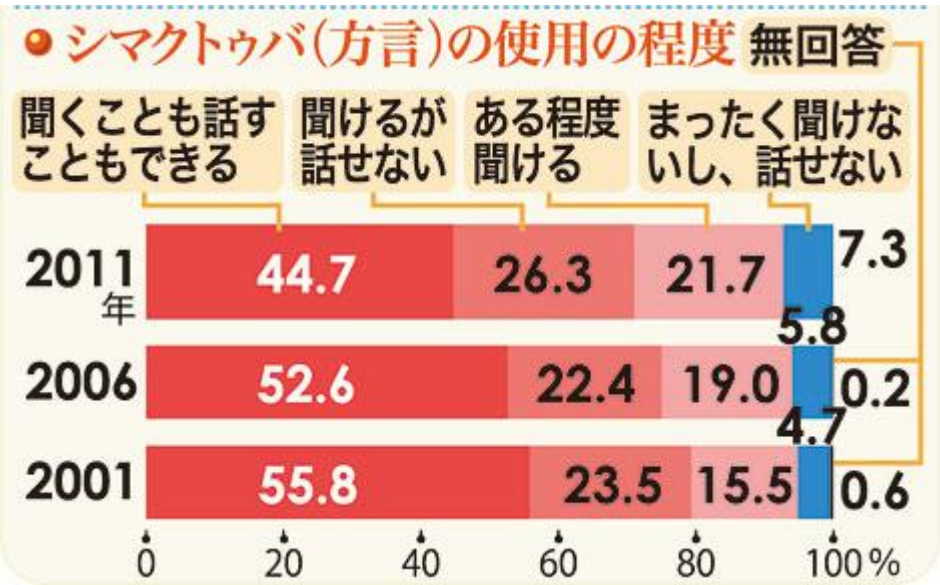
１　中国の調査

まず、ユネスコの「UNESCO Atlas of the World's Languages in Danger」の中国の状況を見てみよう。この図によると、中国で 144 語に消滅する傾向があると指摘された。

それから、2010 年「金華晩報」のアンケートでは、60%の子供が全然方言を話せない；95.3%の親が金華弁と共通語が共存できる；16.9%の親が方言の勉強は共通語の習得に良くない；91.9%の親が方言と共通語ともできる子供の方が能力が強い；98.3%の親が地元の人が故郷の文化を伝承する義務と責任がある；98.3%の親がこれから子供に方言を教えたいと考えている、という結果だった。

２　日本の調査

ユネスコの「UNESCO Atlas of the World's Languages in Danger」の日本の状況を見てみよう。この図によると、日本では８語に消滅する傾向があると指摘された。



それから、2011 年琉球新報社による沖縄県の県民意識調査の結果を見てみよう。

報道によると、シマクトゥバ（方言、沖縄の言葉）を「聞けるが話せない」人が 26.3%、「ある程度聞ける」人が 21.7%、「まったく聞けないし話せない」人が 7.3%。聞けて話せる人の割合は 70 代以上 86.8%、60 代 75.0%、50 代 51.5%、40 代 27.9%、30 代 13.7%、20 代 10.1%と、若い層ほど小さく、世代間のギャップが大きいという危機的状況だと述べている。

なぜこういう現象が起きたのか。原因としてまず考えられるのは、マスメディアやインターネットの発達により、子供たちが共通語に接する機会が多くなった代わりに、方言に接する機会が少なくなったことだ。その他の原因としては、方言の担い手、つまり若者たちが地方にいないことが考えられる。都市化やグローバル化が急速に進んでいる今日、多くの若者たちが都市部へ出ていくようになったからである。それから、方言の担い手はいるが、方言が伝承されていないことも大きな要因である。共通語が多く用いられている学校教育により、方言に対するマイナスのイメージが植えつけられ、子供に方言を教えない家庭が多くなっているからである。

第二章：　なぜ方言を守らなければならないか

なぜ方言を守らなければならないかという理由について、国立国語研究所木部暢子教授が「危機的な状況にある言語方言の実態に関する調査研究」で次のことを挙げている。一つは、ことばというのは文化であるということ。したが

って、ことばの喪失は文化の喪失につながるということ。もう一つは、人間のことばの特色を考えるうえで、ことばの多様性が必要だということである。

それから、木部暢子教授はリーダーを務める「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」で、「危機方言は、他の方言ではすでに失われてしまった古代日本語の特徴や，他の方言とは異なる言語システムを有している場合が多く，一地域の方言研究だけでなく、歴史言語学、一般言語学の面でも高い価値を持っている。また，これらの方言では，小さな集落ごとに方言が違っている場合が多く、バリエーションがどのように形成されたか、という点でも注目される。」と述べている。

日本文化庁は「方言は地域の文化を伝え、地域の豊かな人間関係を担うものであり、美しく豊かな言葉の一要素として位置付けることができる。」と述べている。

ところで、中国語方言は漢民族言語の地域的変体であり、国内東南沿海地区だけでも、「10 里離れれば発音が異なる」現象がみられる。方言は国の宝物である。

中国雑誌「語文研究」李小平・副編集長によると、方言の主な社会的価値は次の 2 方面に現れる。まずひとつの成熟した方言は、それを使用する人達の間できわめて良好な交際ツールとしての役割を発揮する。方言を母語とする人の多くは、標準語よりも方言で話した方が思う通りに言いたいことを伝えられるという経験をしたことがあるだろう。次に、方言は一般的にある地方文化が育んだ産物のため、その地方文化に根付く独特の文化的情報を適切に指し示し、記録することができる。

それから、日本での世論調査では、日本語は乱れていると答えた人が八割もいる、言葉が今以上にひどく乱れないようにするためにも、古くから伝わる日本語、方言を大切にする必要があるのだ。

第三章：　方言――時代遅れ？

方言は共通語に比べ、時代遅れの過去の産物で、保護する必要はないと考える人もいるかもしれない。しかしこのような観点は当然妥当ではない。方言は各地の悠久の歴史と文化を伝承する地方文化の直接的シンボルだ。方言の保護は、国文化の多様性保護を後押しする。

方言は言葉として生きていて、地域の言語生活を生き生きとさせる豊かな言葉である。方言は変化しながら生き続けていく。テレビの普及や電車、飛行機、自動車などの発達によって地域性は希薄になるが、新方言の発生、方言同士の接触による革新方言の誕生などによって言葉の多様性は保持されるであろう。

言葉は使用するうちに次第に擦り減っていく。それを補い、老朽化した言語に活力を与えるものが方言である。現在の共通語が方言を取り入れつつあるように、過去においても共通語は周囲の方言によって新たな生命を与えてきた。もし、中国や日本などの国が方言がなくなれば、それは、中国語や日本語自体の衰退につながっていくのではないだろうか。

その上、同じ方言を持つ者同士ではスムーズに意思疎通ができたり、その地域内では短く簡潔に表現できたりと、方言にはたくさんの利点があるのだ。何よりも、親しみが持ちやすいというのは最大の利点である、共通語は全国の人に分かるように作られているので堅苦しい印象があるが、方言は周りの人が会話で使っているのでとけこみやすい。また、単身赴任や学業のために故郷を離れている人々が、同じ方言を持つ者同士で、方言をきっかけとした出会いをするかもしれない。そして、方言を用いた会話を通して故郷に思いを寄せたりすることができる。方言は人々の交流や故郷への思いまでうみ出すことができるのだ。

第四章：方言と共通語は共存すべきである

従来の教育成果やテレビの普及などによって中国や日本などの国々に共通語が広まっているが, 今後も両者が役割を分担しつつ共存していくことが望ましい姿であろう。地域の人と話す時に方言を使って、ほかの地域の人と話す時に共通語を使うように、親たちが子供に方言を教えるべきで、先生たちが子供に共通語を教えるべきだと思われる。

そして、方言と共通語を共存させるために何をしなければいけないか。木部暢子教授は次の二つを挙げている。一つは方言の記録。研究者はこれしかない。二つ目は生きた言葉として方言を残すためには、地元の方々がこどもたちに伝えることが必要だ。その鍵を握っているのは 40 代の方だ。

また、日本文化庁は次のように方言に対しての方策を述べている。

> 児童生徒が地域に伝わる民話や芸能, あるいは高齢者とのコミュニケーションによって方言に触れること, さらに他の地域の方言についても知識や理解を深めることなどが考えられる。これらは, 言語感覚を養い, 豊かな心を育てる上でも有益であろう。
>
> 学校教育においても従来, 地域の現実に即して, 共通語と方言との共存を図りつつ, 適切な指導がなされているところであるが, 今後も学校, 家庭, 地域社会等がこのような認識の下に更に方言に親しむための工夫をすることが望ましい。

また,方言の学術研究も大切である。国語研究の重要な分野として,今後ますます発展・充実することが望ましい。

このように、家庭から学校や政府、社会まで、方言は地域だけではなく、国にとって、代わらない宝物であるということを意識しながら、方言を守るべきであろうか。

おわりに

人生の一生から見れば、生まれて最初に学ぶ言葉は方言である。母が選べなかったように、自分では選ぶことのできない、生まれた土地の代々の言葉である。それに対して、共通語は学校教育で主として書き言葉として学ぶ第二の言葉である。

こうして、共通語と方言をめぐる問題はすべての人にかかわり、毎日毎日の生活に関わる。

しかし、今の人々は方言を大切していないと言えよう。方言は決して捨ててもよろしいものではなく、消滅するのもあり得ないに違いないと考えられる。

したがって、家庭から学校や政府、社会などが方言を重視して、若者たちに方言を教えましょう。

参考文献

·佐藤亮一（2002）『お国ことばを知る方言の地図帳』小学館

·柴田武（1988）『方言論』平凡社

·日本方言研究(2002)『21 世紀の方言学』国書刊行会·

·木部暢子　「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」，〈http://www.ninjal.ac.jp/research/project/a/04-1/〉（参照 2014－06－22）

·木部暢子「危機的な状況にある言語方言の実態に関する調査研究」，〈 http://www.ninjal.ac.jp/publication/ninjal-f/pdf/ninjalF003_06.pdf#search='%E6%96%B9%E8%A8%80+%E6%B6%88%E6%BB%85'〉（参照 2014－06－22）

·人民網日本語版（2013 年）「中国方言地図サイト、米国人が開設　いかに方言守るか」，〈http://j.people.com.cn/206603/8327401.html〉（参照 2014－06－22）

·文化庁「方言の尊重」，〈 http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/joho/kakuki/20/tosin03/04.html

〉 (参照 2014－06－22)
・琉球新報（2012 年） 『「方言話せる」５割切る 琉球新報 県民意識調査』,
〈http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-185791-storytopic-1.html〉
(参照 2014－06－22)
・ユネスコ（2010）UNESCO Atlas of the World's Languages in Danger,
〈http://www.unesco.org/culture/languages-atlas/index.php〉
(参照 2014－06－22)
・徐莹（2010）「你的孩子会说方言吗」,
〈http://www.jhnews.com.cn/jhwb/2010-10/05/content_1250809.htm〉
(参照 2014－06－22)